# 笠南中だより

みどり市立笠懸南中学校
令和5年12月7日　第１１号
校　長　　大　澤　　智

## 「校内駅伝大会」開催

１１月の前半に校内駅伝大会が行われました。本校ではマラソン大会のかわりに、この校内駅伝大会を行っています。

４人から５人でチームを組みます。チーム内では、走る順番を工夫したり、走るのが苦手な人は１区間だけ走り、走るのが得意な人が２区間分走るなどの工夫をしたりしてレースに挑みます。

みんなでチームを応援するのでマラソン大会にはない盛り上がりを見せました。

## １、２年生空手道に挑戦

１１月２８日、１、２年生を対象に空手道講習会が開かれました。今年度、本校は県から体力向上の指定を受け、その一環として空手道も学ぶことになったのです。

県空手道連盟から先生をお招きして、突き、受け、型の基本を学びました。最後は、生徒全員で型の演武を行いました。型が決まると同時に「ヤー」という気合いが体育館に響き渡りました。体育館の空気がピンと張り詰めた一瞬でした。

## ３年生保育実習に取り組む

１１月下旬３年生は、家庭科の授業の一環として保育実習に取り組みました。

授業で作った幼児と遊ぶおもちゃを手にいずみ保育園にいきました。園児とボーリングをしたり、砂遊びをしたり、追いかけっこをしたりしていました。

3年生は、園児に遊び方を丁寧に教えてあげたり、困っている園児に手を差し伸べてあげたりしていました。とてもやさしい３年生でした。

## 人権集中学習～人権意識の高揚に向けて～

１１月２７日から１２月にかけて、人権集中学習を行いました。

校長講話では、身近な人権問題を取り上げ、ネットにより誹謗中傷、プライバシーの侵害、そして、いじめは決して許されることではないことを伝えました。講話後は、北朝鮮による拉致問題を扱ったDVD「めぐみ」を全校で鑑賞し、今もなお、続いている国際的な人権問題を知るよい機会となりました。

この後、各クラスでは、人権について話し合い、「クラス人権宣言」（上の写真）を作成しました。生徒は、このような活動を通して人権意識を高めていきました。

# 子育ての知恵＜No.3＞～子育てに役立つ情報をお届けします～

## ほめて伸ばすコツ

「ほめて伸ばす」とよく言われます。
子どもをほめるだけなら、それほど難しいことではないでしょう。
しかし、子どもをほめて、そして、伸ばすためには、コツが必要です。
そのコツは以下の通りです。

「結果」や「能力」よりも、「過程」や「努力」をほめる。

「学力の経済学」（中室牧子　著）という教育書のベストセラーがあります。
この書籍には、ほめかたの違いに関する研究が紹介されています。
その研究の概要は以下のようでした。
テストでよい点数をとって、「頭がいいね」と「能力」をほめられた生徒たち（A群）は、その後、成績で伸びはあまり見られませんでした。
その一方、「がんばったね」と「努力」をほめられた生徒たち（B群）は、その後、成績で多くの生徒に伸びが見られました。
A群の生徒たちは、テストができたときには、自分は能力があると考え、テストができなかったときには、自分は能力が無いと考える傾向にあったと言います。
B群の生徒たちは、テストがよくできたときには、努力をしたからだ、次は、もっと努力しようと考える傾向にあったそうです。また、テストができなかったときには、努力が足りなかったのだから、次は、もっと努力をすればいいんだと考える傾向にあったそうです。

つまり、「がんばったね」と「努力」をほめられた子どもは、テストで成果を出すために「努力」を重視し、「努力」を重ねるようになった結果、成績が伸びていったと考えられます。

だから、子どもがテストで成果を出したときは、「努力」や「過程」に焦点を置いてほめてあげるとよいでしょう。例えば、次のようにほめます。

親：「おお、がんばったね。どんな努力をしたの？」
子：「最低、２時間は勉強してから寝た」
親：「へえ、２時間か、すごいね。まずは勉強時間をしっかりとったんだね」

親：「おお、すごいね。何か工夫して勉強したの？」
子：「今回、問題集でできなかったところを何回も見直ししたかな」
親：「なるほど。自分の弱点を克服しようとがんばったんだね」

また、お家の方が、子どもの努力の過程を見ておき、「ここがよかったね」と伝えてあげるのもよいでしょう。
このようにほめることによって、子どもは勉強のプロセス（「過程」や「努力」）をより意識するようになるでしょう。

【参考文献】
工藤　勇一　著「子どもが生きる力をつけるために親ができること」かんき出版

※表彰については、次号でお伝えします。